



最愛とし

Master-random

「麻依…いくよっ…ウツ…!!」

僕は麻依の膣内に射精し果てた…
男と付き合うのは僕とが初めてだと
言っていたのに、処女ではなかったのか？
という思いを飲みこみながら…



「…ごめんね麻依…僕…
下手くそだった…よね…?」

「ううん…達夫くん…
もう少しだけ…抱きしめていて…」

愛妻——麻依はある日を境に、
とてももうつろな顔をするようになった。

この表情を見せるようになる1週間前のこと——。

僕達夫は学生時代から麻依と清い付き合いをしてきたが、晴れて結婚することになった。



僕達は新婚だが、まだセックスをしたことがなかった。当然若い男女だ、欲望に流されそうなきは幾度もあったが…お互いを大切に思っていたからこそ我慢できた。

そして夜：僕は麻依と初デートの時に行った遊園地に誘った。

「今日はありがとう達夫くん…
私この観覧車から
あなたと見る夜景が…一番好き」

「僕もだよ…あのさ麻依」

「…はい」



「今日なんだけどさ…
その…君と…セックスが…したい…!」

「…うん…嬉しい…!」

観覧車の中で彼女を抱き締め、
深く優しいキスをした。
この晩、2人が迎える幸せな瞬間を期待しながら…。

「…はあ…私…今日こそ…
達夫さんとひとつに…
嬉しいけど…うう…
緊張してきたなあ…
下着もキチンと選んだし…でも…」

「不安なら俺がチェックしてやるよ」

「むぐうっ!!ん〜…!!」



「…ふはっ…! あ…あなたは…ストーカー…!」

「よお、麻依ちゃん…ひでえ言い方だなあ…俺はあんたの魅力に惹かれてるだけなのにさア」

「た…たすけて…誰か!」

ドゴツ!



「か…はっ……!!」

「オイオイ…あんま騒ぐとミンチにすんぞこのアマ!」

バキツ!ゴスツ!

「うっ…うっ…痛いっ…!!
わかりました…!!だからもう…
殴らないで…ください…!!」

「…ふーっ…最初から大人しくしてりゃいいんだよ…
じゃあ早速だけどし♪服…脱ごうか!」

「えっ…!!?そんな…嫌…です…っ!」

「なーに?聞こえね…また殴られてえのかコラ!」

「ひっ…わ…わかりました…!」



「おー…でっけえ乳してんねえ
麻依ちゃん…
やっべもう勃起してきたわ…
オラッさっさと脱げや！」

「さ…さやあ…！」

ドサツ！



「えっ…何をする気…
ですか……？」

「あー？男と女が裸になりや
やること決まってるんだろ！
セックスだよセックス！」

「そんな……！
いやあつ！やめて！
まだ…達夫くんとも
したことないのに！」



「あー？処女なのお!?
ラッキー!!んじや旦那さんより先に…
処女ゴチになりやーす!笑」

ずぷうっ!
ブチブチブチッ!!

「いっ…イヤアアあああ!
痛いっ!痛いっ!痛いっ!」



「うあーすっげー処女マンコ…
あーごめん俺の名前言ってなかったよね！
桜木って言いまーすヨロシクっ笑」

「えっ…えぐっ…ひどい…
ひどいよ…こんなの…
…うああっ…あああっ！」

「まー麻依ちゃんの人生
そんなもんってことで…
諦めて桜木くんのチンコで
気持ちよくなろうぜ♪」



ズツズツ！パンパンパンパン！
ずちゅ！ずちゅ！ずちゅ！

「んう…っ！ひあ…っ
…や…だあ…っ！
やめ…っ…てえ…っ！」

「うお…麻依ちゃん処女なのに…
もしかしてすっげえ名器じゃね？
結構俺も遊んできたけどコレヤベーわ
…もうイきそうっス」



「あっあっ……! 痛……い……っ……!!
やめ……て……っ!!」

「ピストンやめてって?
うーんわかった!
じゃあガッツリ中出しすっから…
そろそろピストンやめまーす笑」

「なか……っ……っ……やめて!!
中は……!! 赤ちゃん……出来ちゃう!!
ダメえっ……!!」



ぬぱんっ!ぱっちゅぱっちゅ!
ズツヨズツヨ!ズツパンズツパン!

「あゝダメッ!腰止まらねー!
イクイクイクッ!中出しするよー!
麻依ちゃん麻依ちゃん麻依ちゃん!」

パパン
パパン
パパン
パパン
パパン

「イヤ!イヤ!やめてええええええええ!」



どびゆっ!どっびゆううううううううううう!
ぶびゆっ!ぶびゆるるるるるるるるるるる!

「あああつ……!
そんな……中に……
出され……て……」

「ふいっ……やっペー
クツソ搾られた……
やっぱ犯すなら処女だわ」

「うっ……ひぐっ……
助け……てええ……っ……」

「あーこりやアタリ引いちゃったよ俺……
麻依ちゃんさーこの後俺の友達んとこ
連れてくけどお……いいよね?
……ってシヨック受けちゃって聞いてねーか笑」



「ビューっ！桜木さん
マジで女連れてきたよ！」

「ウエーイ超可愛いジャーン♪
俺、龍二って言うんだ
ヨロシクね♪」

「おいテメーら勝手に触んなよ！
賭けた金払わねーと
やらせてやんねーぞ」

「ハイハイ賭けの1万ね！
怒らないでくださいよ桜木さん」

「はっっ…ラブホについて来る女なんていねーよ
って思ったけど負けましたわー笑」

「逆に1万でやれると思えば安いだろこの子…
あーめっちゃタイプだわー！チンコビンビン」

「誰…このひと…たち…?」



「おー麻依ちゃん！状況わかるようになったかなー？
今から俺の友達とく〜生ハメパーティーしちゃいます！
ギャハハハハ！」

「なま…はめ……？まだ…おうち…帰れないの……？」

「ねー桜木さん大丈夫かよこの子？
薬とかキメさせてないっすよねーまさか」

「そりゃーゴツツイ男5人に囲まれたら
怖くて子供みてーなことしか言えないっしょ笑」

「あーもうチンコやべーわ！早くやろうぜ」



「おら麻依ちゃんだっけ？
桜木さんから話は聞いてたぜ♪
そのデケえ乳でパイズリしてくれや」

「オラッケツ出せ
豚女！殺すぞ」

「こつちも舐めてね〜♪
まあ本もあるから
ゆっくりやろ〜笑」

「うおっすっげえ
爆乳人妻じゃん！
今日は気絶するまで
ハメてやつからな」

「こんな上物の奥さん
ナイシヨで食べられちゃう
とか旦那さんカワイツ〜笑」



ずちゅっ！パンパンパンパン！！

「…あっ…ああっ…んっ…」

「えっ麻依ちゃん
もしかして
感じてる？」

「マジかよ
淫乱か！」

「さっき処女貰ったのは
俺だからなく覚えとけよ
麻依ちゃん♡」

「うおっすげえサイズリ…
手使わないでこの乳圧
ワイルドクラスだわ」



ずぱんっ！ばちゅん！
ズツズツズツズツズン！！

「あーやっべ…そろそろ出すぞ！」

「あっ…あぁっ…うぁっ…」

「スケベすぎるよ
麻依ちゃん…出すぜ！」

「あゝ髪の毛ロキやべえわ
出る出る出るっ！」

「オラっ舌出せ豚ア！」



びゅぐぐうっ!!
どびゆるるるるっ!!
ぶびゆるるるるる!

「あっ……!!
いやあああっ!!」

「ふっ……さあて
まだまだ終わらねえぞ
麻依ちゃんよおっ笑」

「いやあこれ何回でも
出せそうだわ」

「ヤリチン5人に
ハメられまくって
死ぬなよ麻依ちゃん
ギヤハハハ!!!」



翌朝——麻依は帰ってきた。

「麻依！心配したよ……どこ行ってたんだい!？」

「達夫……くん……えつと……ね……私……実……は……っ」

「?何……?何かあったの?」



「うっ……ううん……!ばったり……同級生に会って……
その……盛り上がっちゃって……」

「そ……うなの?顔色……すごく悪いけど……」

「……飲み過ぎ……ちゃって……それで……迎えに来てもらうのも
悪いし……泊まってきたの……」

「麻依がお酒なんて珍しいね……今日は僕も休みだし
ゆっくりしてなよ」

「うん……ありがとう……達夫くん……」

そして1週間後

現在

「おう麻依！テメーやる気あんのか？
マジで今までのハメ撮り動画全部
旦那の会社にバラまくぞ」

「そ…それだけは！
あの人だけは…
巻き込まないでください…桜木様っ！
ちゃんと…ご奉仕しますから…」



「つたく最初から素直に言うこと聞けや豚が！
まずは「メー」を公衆便所として
調教してやつから…大事な金ツルだからな笑」

「桜木さん…ほ…本当に
俺たちでこの子好きにしても
いいんすか…？ホームレスですよ
俺たち…へへへっ…」

「あ…しつかり可愛がってやれ
そのかわりまた街でイイ女見つけたら
ソツコ…俺に教えんだぞ？」

「当たり前じゃないっすかあ
この麻依ちゃんだつて俺らが
町で見かけたのを教えたんだし…うあああ…
憧れの麻依ちゃんが俺のチンコ握ってるよオ…」



「うおおおつ…
ヤバいですぞこれはあ！」

「ゆ…油断したら
すぐ射精されちゃう…
麻依ママあ…♡」

「へっよかったなあ麻依…
好評みたいだぜお前の手コキ」

「は…はい…光荣です…
もっとおちんちん…
気持ちよくなってくださいね…」





しゅこっ♡ちゅこっ♡
にゅちゅっ♡しゅこっ♡

「ああ…俺もう…!!」

「うぐう…麻依ママ…
こっち見て…
褒めてえ…!!」

「はい…おふたりとも
カリ高ちんちんとっても
硬くて…ステキですよ…♡」

「出るっ!射精するよ
麻依ちゃああん!!」

「そ…それじゃあ入れるよ…
麻依ちゃん！」

ずつつぷうっ！！

「あ…があっ!？」

「うわあ…
すごい名器ですな
麻依ちゃん…
そいつのデカマラ
入っちゃうの…!!」

「死んじゃわないよね？」



パン！ばっちゅん！
どちゅんっどちゅんっ
バンバンバンバン！！

「ぐぎやあつ…?!
んああああつ!!!」

「ああゝ感動ですよ
麻依ママ…
ヒダヒダが
ちんちん
包んで
くれてるよお」

「めっちゃエロい…
麻依ちゃんのだ
旦那さんが羨ましい」

「いやいや、僕たちに
犯されちゃってるから
…アハハ」





「まずは1発目中出し…
行きますぞおおおっ！」

「イヤっ！イヤっ！
しんじやううう！！
あんあんあん！」

びんぱんぱんぱんぱん！！

「は……はいい……
私に……いやらしい
麻依のおトイレまんこに……
皆様の高貴なおちんぼみるく
中出ししてくだしゃいいいい♡」

「ダメだよ……！
そんなエロい
セリフ言われたら
また中出し
したく
なりますぞお！」

ぱちゅん！パン！
パン！ズツズツズツズツ！！

「ああ、ヤバい
僕達もぶっかけ
したいっ！
するよ！」

「エロおっぱいと
可愛いお顔で
受け止めてええ！」





「さうして麻依…調教出来てきたし
いよいよA-Vデビュー」だな！
…頑張って俺のために
稼いでくれよう…ヒビヒツ」

1か月後：あの夜以来僕ら夫婦は
まったくセックスをしなくなった：

：というより：麻依が
家を空けたまま帰らない日が
増え：僕は心配と同時に不満を
募らせていた。

そんなある日：麻依の携帯から
とんでもない動画が送られてきた……

それは僕に激しい悲しみと後悔を
与えるモノだった……



「お…おほっ♡♡♡
達夫くん…んおっ…♡
元気ですか…?
私は…見ての通り…
男優さん達にエッチを
教わつてます…ほおおっ♡」

「ハハッ…ひっでえ…笑
旦那さん見てますか？」

「うわ…麻依ちゃん…
さすがにその表情は
商品にできないから
撮影本番では控えてね笑」

「しっかし桜木クンも上玉
見つけてくれたよねえ…
最近の女優はハメ甲斐
無いし助かるよ」



なんだ…なんだよこれっ…
麻依っ！麻依いいいいっ！

「っ…わけで旦那さん…
この子は僕らが責任もって
育てるんで…新しい女の子
探してね♪」

「うおっすっげ〜このおっぱい
ちんこ吸い込まれちゃうよ」

「そ〜いや先輩〜！
桜木クンでは麻依ちゃんに
飽きちゃって別の子
調教してるらしいっすよ」

「へ…俺らが言うのも
アレだけど麻依ちゃん
俺らのとこに来て
正解だよ！今度社長に
紹介してあげるから」



「はひっ♡ありがとう♡ごいましゅ♡
んおっ♡おおおっ♡♡♡
おっばい♡いつちやうよおおっ！」

「おいおい♡
おまんこも
しっかり
頑張っでね」

ぱんぱん!
ぱんぱん!
ぱんぱん!!
ぱんぱん!!
ぱんぱん!!

「イクっ♡♡♡イきましゅ♡♡♡
おまんこイっちやいましゅ♡♡♡
ううう♡♡♡」



びゅぐぐう~~~~っ♡♡♡
どくどくん!どびゆる~~~~っ!!

「んあっ♡♡♡
あへええええっ♡♡♡」

「あーすげえイキつぷり…
ちよつとはカメラ映り
考えよーよ笑」

「へばつてる暇ないよ麻依ちゃん
次は3穴責めだよ!」
旦那さんも応援ヨロシクっ笑」



「麻依…そんな…最近様子がおかしかったのは…
こういうこと…だったのかよ…!」

どれだけ後悔しても
幸せな日々は戻ってこない。
思えば先月…ホテル街で突然消えた時も…
別のオトコと会うためだったのかもしれない。

「ストーカーがいたって言うのも…
全部男遊びするための方便だったって
こと…だったのか…?」

僕は最愛の妻が淫らに腰を振る様を見て
失望と同時に、幸せだった二人の時間が
完全に失われたことを実感し、絶望を感じていた…





「は〜い麻依ちゃん
お待ちかねの
3穴プレイですよ〜」

「オラっしやぶれ!!」

「ぐむううううっ!!」

「ああ〜…気持ちいいよ
最高の尻穴だわ締め付けスツゲ〜」

どどパパン
どちゅぱぱ
つっつンン
♡ !!

ズっちゅずっちゅ
ズッズッズッズッ
ズッ!!

「ぐぼっ...じゅぼっ...♡
男優さんたちの
おちんちん...♡♡
しゅごいです...じゅぶぶっ♡♡
「♡♡



「いや、すごいよ
麻依ちゃん
女優の才能
あるよ」

「ありがとう…
ございますう…
ぐぽっ♡じゅるる♡」

「桜木クンには
感謝だよ…
こんな金の卵
見つけてくれてさ」

「ほらおまんこもつと締めて…
DVDの売上次第じゃ社長の
ペットにしてもらえるかもよ？
そうすりゃ一生安泰だよ麻依ちゃん」



「しっかし
スケベな
フェラだ…
これじゃ
遅かれ早かれ
旦那さんも愛想
つかすわ」

「アナルも開発してあげるからねー
オラ豚麻依！しっぴかりマンコ締めるやー！」

「いやあこんな淫乱
おまんこを新品のまま
放置してた旦那さんが
信じられないよ…
据え膳他の男に
喰われちゃったね？笑」

「ふあ…ふあ…
もっど…突いてえ♡♡♡」

「やっべ俺
そろそろ
中出しキめるわ」

「おらバキュームしろ
この便器！」

「イってイって♡♡♡
おちんぽイってええええええ！」

パンパンパンパン!!
ずっぱんずっぱん!!
ばちゅっ!!ばちゅっ!!

「俺も...出すよ!
麻依ちゃん！」





びゅぐぐぐうっ!!
どびゆるるるる〜っ♡
ほびゅっ!どぶっ……♡

「あっ……あああ〜っ……♡」

：僕と麻依は結婚から半年という短さで離婚した…
原因は妻の浮気…ということで一段落させた。

しかし…それが僕の身勝手な誤解だったと
気付いたのはそれから間もなくのことだった…。

「…？なんだこのメール…」

いつも通り仕事をこなしながら
パソコンでメールチェックをしていると
『桜木』という人物からメールが届いていた。

「誰だろう…取引先の人…だったかな…？」

恐る恐るそのメールを開くと…本文は無く、
動画ファイルのみが添付されていた…。
その内容こそ、僕の過ちの証明だったのだ。

「は〜い達夫くん見てますかア？笑」

「た…達夫…くん…たすけ…で…え…!!!」

「オラっ喋ってんじゃねえぞ
首ブチ折るぞアマあ！」

「さつき達夫くんとはぐれた麻依ちゃんは
無事処女卒業できました〜！
お相手は桜木さんです笑」

「ちなみにいま動画撮りながら
パイズリしてもらってるのが
この俺桜木です！達夫くん！
奥さんのデカパイやべ〜わ笑」



そんな…じゃあ麻依はこの
桜木ってやつに…さらわれていたのか…!?

「あんなホテル街で
奥さんと離れちゃダメつすよ
達夫くん…まあおかげで
上物ゲットできたから感謝だけど！」

「達夫くん…痛いよ…怖い…よお…」

僕は…それも知らずに…麻依のせいにして…
あの時してたうつろな表情は…僕を…
巻き込まないようにする…ための…うう…っ!



「まあこの動画をアンタのところに送るころには麻依ちゃんも幸せにどっかの金持ちのペットになつて居るだろうからさ…心配しないでいいよ！ギヤハハハハ！」

「うおっすっげえパイズリ…もう射精するぞおおお！」

「俺も！顔にぶっかけるぜええ！」

「イヤ…っ！イヤああああ…っ！」



びゅぐぐるるるっ!!
どっぴゅううううっ♡♡♡

「はくツツッ!!
すっげえ搾られた」

「まあっ—とでアంతタの奥さんは
これからマンコに生中出して調教してくから…
お礼としてこの動画見てシコっていいよ笑」



「はっいご開帳〜♪
早速ぶち込むぞお！」

ズプズプっ…ぶっちゅううううう！

「んあっ…うああっ……!!」



「うっぴより桜木さん
この女のマンコ最高っすね」

「だろ？さっき処女膜
ブチ破ったばっかりだから
新鮮っしょ笑」

パンパンパンパン！！
にゅっぱん！にゅっぱん！！
ずっぱん！ズツズツズツズツ！！



「ああっ…達夫くん…
たすけ…て…」

「あゝ？旦那がここ来たとしても
ボコボコにしちゃうよ？
俺ボクシングやってるしパンチエグいよ笑」

「ビューすっげえもう出る出る！
出すぞ麻依ちゃん！」

「いやっ…やめ…てえ…っ！」





ぼびゆるるる〜っっ♡♡♡
どくどくっ!どくどくっ!どくどくっ!

「イヤあああああっ!!!」

「オラっ休んでんじゃねえぞ！
次のチンコぶち込め！」

「ウエーイ!!!」

ぶちこめー！ぶちこめー！ぶちこめー！





「んおおおっ!!
痛い!!痛いよおっ……!!」

バツスンバツスン!
ばっちゅんばっちゅん!
ズッコンズッコン!

「やっべもう出ちゃう笑
麻依ちゃんくんと出すぜエエエエ!!」

「やだやだやだやだああああ!!」

「うるせえ!

イけ豚あああああ!!」




どっびゆるるるる！
ぼびゆん！ぶびゆうゆうゆうー！

「んあああああつ!!!」

「気絶するまでハメるっつったろ
この便所女！オラどんどんハメろや！」





男たちの暴力的なレイプは
3時間以上続き…僕はその映像を見ながら
ただただ…涙を流して後悔するほかなかった…

「ごめん…麻依…
僕は…君を…信じてあげられなかった…
守ってあげられなかった…ああ…あああ…！」

「は〜…まあこんなもんか…
つーかこいつ生きてんの?」

「しらね〜腹減ったし
牛丼でも食いたいに行こうぜ」

「桜木さんこの女どうすんの?」

「あー?まてキトーに遊んだら
調教してAV事務所にでも売るわ」

「うっわり鬼畜っすね笑
それまで俺らも遊ばせてくださいね〜」





「達夫…くん…えへ…えへ…えへへへ…
…ぐすっ…ふへへ…」
❤️

…麻依は…
こうして
壊されたの
だった

そして…1年後…





「ピースして麻依ちゃん…
ぐっふふ…そうそう…
可愛い子猫ちゃんだね…
もつとおっぱい突き出して
カメラにアピールして！」

「は〜い社長♥
こうですか？」

パシヤツ!
パシヤツ!

「しかし君も苦勞してきたんだねえ…
うちの男優からひどいことされなかつたかい？」

「ちよつと痛かつたけど…
社長と出会えたから
全部気持ちいい思い出
でえす♡♡♡」

「嬉しいねえ…
べろお…じゅぞぞっ」

「あん♡♡
社長ってばくすぐつたいですよお♡」





「こうやってふたりの愛の記録を増やしていこうねえ...」
「さあて今日はどんなプレイがいい?」
「屋外輪姦かな? 銭湯で乱交かな?」
「ファン感謝バスツアーもいいねえ...」

「うふふ...社長がお仕事の後におちんちんでご褒美くれるならあ...」
「麻依はどんなプレイでも撮影しますよ!♡」

「麻依ちゃん：フヒヒ！
それじゃあ早速
今から練習つてことで…
生中出しキめようか？」

「はあい♡
おちんちんみるく
たくさんくださいね…♡♡」





END













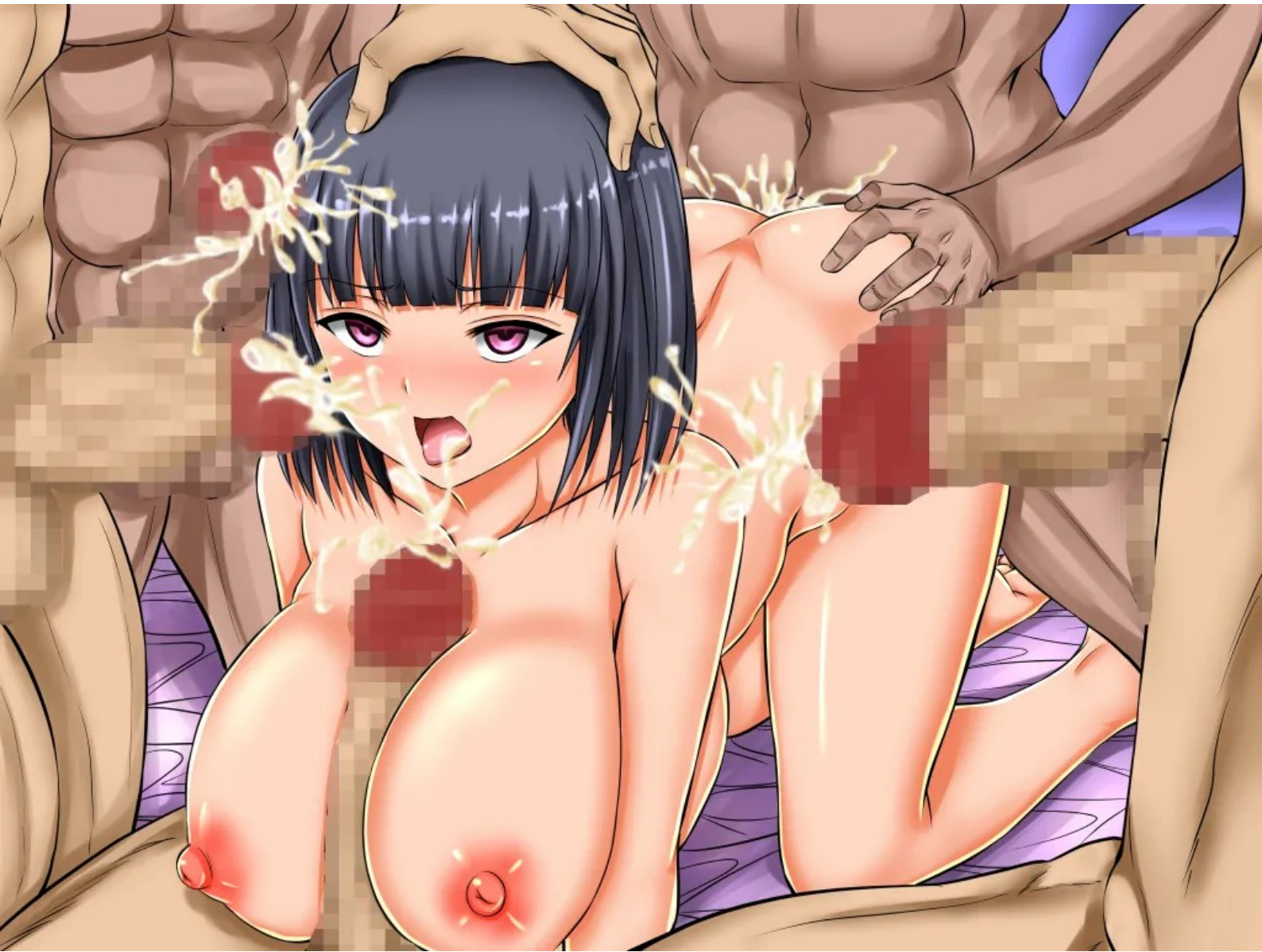








































中出し
卵です。

便器

ナニ

♀
ハニ

豚女

ハニ

ハニ



